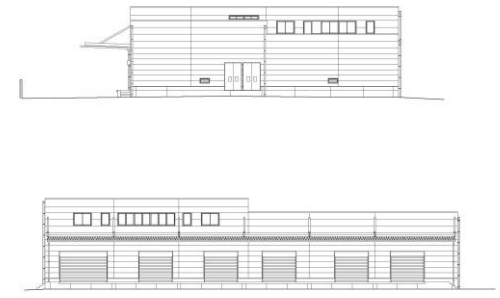


# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築環境配慮制度採用マニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	池伝(株)名古屋支店新事務所	階数	地上2F
建設地	愛知県名古屋市港区小割通3丁目22-1他6筆	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	40人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2020年5月7日
敷地面積	2,274 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	1,472 m <sup>2</sup>	確認日	2020年5月7日
延床面積	2,091 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**= BEE1.3**

★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B:★★★ C:★☆☆☆☆

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 60% :30%

標準計算

- 建設 ■修繕・更新・解体 □運用 □オンサイト □オフサイト

①参照値	138
②建築物の取組み	46
③上記+②以外の	92
④上記+	138

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質**

**Q のスコア = 2.8**

**Q1 室内環境**

Q1のスコア = 3.1

**Q2 サービス性能**

Q2のスコア = 2.8

**Q3 室外環境(敷地内)**

Q3のスコア = 2.5

**LR 環境負荷低減性**

**LR のスコア = 3.6**

**LR1 エネルギー**

LR1のスコア = 4.3

**LR2 資源・マテリアル**

LR2のスコア = 3.3

**LR3 敷地外環境**

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>本建物は自社倉庫として使用される建物となり、従業員が快適に執務が行えるよう、建物形状、使用建材、設備機器の選定を行った。</p> <p>周辺環境への影響が少なくなるよう、建物高さ・建物位置・芝生を設置等を行った。</p>		<p><b>その他</b></p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>執務スペースは吸音効果の高い材料を採用し、又、自然換気用窓を設置し、快適な作業空間となるよう配慮した。</p> <p>使用建材は全て規制対象外又はF☆☆☆☆を採用し、従業員への影響を最小にするようにした。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>休憩室を広く設置し、従業員がリフレッシュしやすい空間とした。</p> <p>設備の更新・改修がしやすいようOAフロアを設置した。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>建物高さを10m以下とする事で近隣住民へ影響が少なくなるようにした。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>外壁、屋根を高断熱性能品を採用し、設備機器も省エネルギー型とする事で地球環境への影響が少なくなるように配慮した。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>節水型機器を採用する事で水資源の有効活用できるようにした。</p> <p>又、将来のリノベーション等に対応しやすいよう、鉄骨造、LGS下地を採用した。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>CO<sub>2</sub>排出量が少なくなるよう、設備機器等の選定を行った。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

### 重点項目スコア・結果シート

池伝(株)名古屋支店新事務所

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.0
LR1	エネルギー	4.3	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.110769639	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.011076964	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.05538482	
3. 循環型社会				2.9
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

### 結果

#### 1. 温暖化対策

評価点 = 4.0



#### 2. 自然共生

評価点 = 1.9



#### 3. 循環型社会

評価点 = 2.9



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。